

火曜会通信

No. 32

伊丹市文化財ボランティアの会 発行

2007/02/01 (H19/02/01)

伊丹市千僧 1-1 伊丹市教育委員会事務局内

秋のバス研修旅行 2006.11.14 北播磨・杉原方面



中央公民館 秋のフェスティバル

養神保壽

しんをやしないじゅをたもつ
(心を養い修むれば寿命を保つ)

~今年もよろしく~

「時代で巡る伊丹の歴史・文化財」を展示

田中 實

昨年 11 月 17 日～19 日の 3 日間、伊丹市立中央公民館で開催された秋のフェスティバルで当会は上記のテーマで展示部門に参加しました。各日とも雨模様にも拘わらず多く市民の方々にお立ち寄りいただきました。

展示内容は「伊丹の歴史年表（原始～平成間の 50 の出来事）」と時代を代表する下記の伊丹の歴史・文化財を写真やマップに解説を加えて紹介しました。

- 縄文・弥生時代 空港周辺の遺跡
- 大和時代 御願塚古墳と伊丹廃寺
- 奈良時代 行基の遺跡
- 鎌倉時代 慈眼寺と大鹿皆法華に纏わる遺跡
- 安土桃山時代 有岡城惣構えの遺構
- 江戸時代 旧岡田家住宅・酒蔵と鴻池稻荷祠碑（清酒発祥の地）

このほかに今回は当会の活動の一端を紹介するために夏休みわくわく教室での作品を展示しました。

展示作品を作成するに当たって、展示プロジェクトのメンバーは 9 月初めから 10 月末までに 4 回の会合を重ね、その他それぞれが分担した現地や博物館、図書館などへ出向き、取材や調査活動を行いました。特に今回はプロジェクトメンバーの斉藤さんに仕上げの校正・編集・印刷をしていただき、これまでより見栄えのある作品を展示することが出来ました。

展示とあわせて「伊丹の文化財を歩こう」半日モデル 6 コースを配布し約 100 人にお持ち帰りいただきました。

中央公民館の展示活動を再開して今回で 3 回目の展示となり、配布資料も延べ 500 部を超えました、市民の皆様への伊丹の歴史・文化財に関してそれなりの情報提供が出来たのではないかと考えています。

最後になりましたが、ご支援いただいた教育委員会のスタッフの方々、展示プロジェクトのメンバー及び当日ガイド担当をして頂いた皆さん、有難うございました。以上



木曜グループ有志は、阪急池田駅 --- 一乗院 --- 五社神社（鉢塚古墳） --- 釈迦院 --- 水月公園 --- 二子塚（新家稲荷山）古墳 --- 阪急石橋駅の行程で、秋深い11月16日、池田の文化財を見て廻った。この度の研修では、鉢塚古墳および二子塚古墳に強い感銘を受けた。したがって、池田市の古墳に焦点を当て、報告したい。

摂津の猪名郡（いなのがた）は今の豊中市から川西市の方まで占める広い領域であったが、律令時代になると丘の上の方は新たに豊嶋郡（てしまぐん）がおかれ、猪名川に面した地域は川辺郡となった。今の池田市は豊嶋郡に入り、伊丹市は川辺郡に入った。当時の池田および伊丹地方の政治、経済、文化圏は大和朝廷に対して同じような立場にあったと考えられる。池田市には、前期古墳として茶臼山古墳と蜈蚣三堂古墳があり、後期古墳として二子塚古墳、鉢塚古墳がある。

五社神社の縁起は、724年（神亀元年）行基の勧請によるといわれている。社殿の背後に鉢塚古墳がある。周濠を有する上円下方墳といわれており、古墳期後期（6～7世紀）の築造と認められる。その両袖形横穴式石室は総て花崗岩の巨石を用い、その構造規模は壮大雄偉で府下三大石室の随一と称せられ、また全国的にも最大級のものといわれ、築造当時そのままによく旧態を存している。横穴式石室の全長は14.88mである。玄室の長さは6.48m、高さ5.2m、幅は3.2mである。羨道の長さは8.40m、高さ平均2m、幅は平均1.8mである。この塚の被葬者は不明であるが、おそらくこの地方を統括していた豪族の墳墓であると考えられる。秦氏は5世紀前後に渡来した後、畿内地方では山背国南部に集中して住んだが、6世紀頃に摂津国に分れ住んだ。特に猪名川流域での中心地は「和名抄」のいう豊島郡の秦上・秦下の両郷であった。秦上社の別名がある伊居太（いけだ）神社は別名穴織物（あなは）神社とも呼ばれ、秦下神社の呉服（くれは）神社と対になった秦郷の守り神で、代々宮司は秦氏であった。市内には秦野、畑、西畑、東畑など、今なお秦にゆかりの地名が残されている。鉢塚古墳は京都市にある蛇塚古墳の石室と酷似しており、蛇塚古墳は秦氏の本拠地である太秦に造られた6世紀の古墳で、築造時期も一致する。これらの理由から、鉢塚古墳の被葬者を秦氏の首長とする説もあるが、これだけ大規模な古墳を築造させた豪族の名前が文献に出ていない、6世紀頃までに秦氏がこの地で大勢力を敷衍できたかどうか、古墳期後期の横穴式石室は円墳か方墳で、古墳築造石工集団が存在し築造したのであるから、古墳の規模が同規模であれば以て当然である（例えば耳原古墳も類似）という理由から、私は被葬者秦氏首長説を首肯できない。

二子塚（新家稲荷山）古墳は、古墳後期の築造で、前方後円墳と考えられる。墳丘上には二基の横穴石室がある。南石室は両袖式の横穴式石室で、全長は6.72m、玄室の長さは4.5m、高さ1.68m、幅は1.54mである。石室の構造はゆるやかな持ち送り式である。北石室は羨道から玄室にかけてのものと推定される天井石が三枚露出している以外は不明である。

池田市文化財と伊丹市のそれとを比較して考える時、文献による裏打ちや考古学的な実証も極めて重要であるが、時間的にも空間的にも、想像を加えて幅広く考える必要もあると思った次第である。 以上

大山崎の歴史と文化財を訪ねて

坪倉 聖博

好天に恵まれた11月28日(火)、金曜Gの企画で大山崎と天王山山麓の歴史と文化を訪ねる屋外研修に参加しました。晩秋の季節としては暖かい朝で、集合時間前に阪急伊丹に行ったところ、先輩方々は既にお集まりでその会話も賑やかなこと。リーダーから説明を聞いた後、伊丹市文化財ボランティアの会の旗を掲げて意気揚々と出発。車輛を良く確かめて「女性専用には乗るなよ」と経験者から注意の言葉を聞き、何はともあれ無事に阪急大山崎に到着。今日のコースは大山崎町歴史資料館から離宮八幡宮・関大明神・大念寺・宝積寺・サントリー山崎蒸留所等々。駅前で当地のガイドさんと合流し大山崎町歴史資料館へ。ここ大山崎は天正10年(1582)、秀吉と光秀が戦った山崎の合戦の舞台として有名だが、歴史資料館では、「戦国の争乱と大山崎」と題した企画展が開催されていて、大山崎に残る禁制の書状や武将の札状など当時の資料が数多く展示されていた。また千利休が建てた国宝の茶室「待庵」の原寸大の復元模型もあり、室内は二畳とい空間、に

じりじりの焚き火とその造りに感嘆の声が聞こえた。

離宮八幡宮の由来は平安の初め清和天皇が、太陽が身に宿る夢の中で、「九州大分の宇佐八幡宮より八幡神を京へ勧座せよ」と神のお告げを聞き僧の行教に命じました。天皇の命を受け八幡神を奉じて帰京した行教が、山崎の津で夜の山(神降山)に霊光を見て不思議に思い、その地を掘ってみると岩間から清水が湧き出した。「これぞご神威」と、ここに御神体を鎮座し、貞観元年(859)国家安泰・国民平安を目的とする「石清水八幡宮」という神社が建立された。さらにここが嵯峨天皇の離宮跡であった為、その後「離宮八幡宮」と改称され現在に至る。また、平安時代に時の神官が荏胡麻の搾油技術を開発し、以来「油座」の本所として大山崎は栄え、当宮は油の神様として親しまれている。

関大明神社の始まりは不明であるが、この地が攝津国と山城国の関所であった山崎の関所跡と言われ、関守神または辻神を祭ったのが起こりではないかと言われている。現在の本殿は室町時代中期の建立と思われ、大阪府の重要文化財に指定されている。東側には「従是東山城国」の石標があり本殿との間に小川があるが、古くはこの川が攝津と山城の国境だったと言われている。

次ぎに訪れた宝積寺は、伊丹にも名を残す行基菩薩が建てた古刹で山門をくぐれば正面に本堂を拝し境内には大黒天神や弁財天さらには閻魔堂もあり、中には怖〜い閻魔様。その前で説明を聞く面々は行く末を案じてか一同が神妙な顔。

その後、紅葉が美しいアサヒビール大山崎山荘美術館の庭園で昼食と休憩をした後、健脚組は天王山中腹を目指し出発。美術館から急な登りの坂道で途中休憩をしながら旗立松展望台まで登った。ここからは桂川、宇治川、木津川の三川が合流する雄大な眺めでした。

最後に訪れたのは大正時代に創業を始めたサントリー山崎蒸留所。入口手前に「西観音寺閻魔堂址」と記載された石標があった。それによると天平18年(746)行基が聖武天皇の掃依仏である観音像を奉じて建立した西観音寺の総門の外に閻魔堂があり、明治5年(1872)に椎尾神社となり閻魔堂は解体されたとある。案内された工場内ではウイスキーの原料である麦の説明や、蒸留釜・工程の説明、そして倉庫内に眠る数多くの樽。1900年代前半の古い樽もありここでも歴史の古さを知った。見学後には美味しいウイスキーを試飲、全員が少しのホロ酔い気分で帰路についた。

大山崎にはこの他に、霊泉連歌講跡碑や大念寺、妙喜庵、観音寺など多くの歴史的文化財があります。皆さんも是非一度この町の歴史と文化を訪ねてみられては如何ですか。 以上

<<< 11期生の紹介 : 細川から見た仲間達 >>>

11期生は、平成18年度の養成講座(1~3月)を受講、3月末の市民ガイドを初体験した11名からなりますが、伊丹市外在住の方もいて、文化財ボランティアの会に在籍しているのは9名です。これを機会に、有志10名で11期会(仮称)を結成し、伊丹文化財ボランティアのガイドに少しでも役立つ様、時々集まって研鑽しています。個人情報共有せず、年齢差、男女差を感じる事のない和気あいあいとしたグループ行動がモットーです。各種講座(伊丹歴史探訪等)やイベントの参加に声を掛け合い、グループ活動では、市内探索を始め、京都葵祭見学-哲学の道散策、津和野一泊旅行、三田市内の歴史めぐり等を行いました。メンバーはそれぞれに個性があり、リーダー格の濱田さんは、旅行好きの行動派で、人脈が広く皆の為に大いに世話を焼いてくれます。ユーモアたっぷりの若々しさは、ボランティアの会にとっても貴重な存在です。何事にも穏やかな多田さんは、伊丹の事は何でも知っている大ベテランで、目立たず、出しゃばらず、人の言う事にじっと耳を傾け一つ一つ丁寧に教えてくれる皆の教師的存在でもあります。学者風の中川さんは、“妻と相談”が口癖の、冷静沈着な紳士で、出かける時には必ずインターネットで事前調査、資料と見比べながら、食欲に見聞を広めておられます。マイペースの田原さんは、聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥を実践され、知っている事は惜しみなく提供してくれます。むぎわら音頭を得意とし、地域と密着する和やかな実践派です。一番若手で如何にも青年風の坪倉さんは、文化財だけでなく、景観や博物館関係等でも幅広く活動されており、手

早く行動する人なつっこい性格は子供向けイベント等で大活躍されています。

唯一市外在住の岡部さんは、三田市でも文化財のボランティア活動をしており、伊丹と三田市の架け橋となっています。今回の三田歴史巡りも幹事の奈良さん(女性)をガイド役に抜擢され、我々新人にガイド要領の端々を感じさせて頂きました。当記事を書いております細川は、伊丹歴が浅く、伊丹を知る為に自分で勉強するのが億劫で入会しましたが、先輩諸氏のお話は余り聞けずに彷徨っています。市民のガイドなんておこがましいと思いつつ、自分の楽しみ優先で活動しております。次に女子の部ですが、病気をしたものの、元気はつらつの中山さんは、能あるタカは爪を隠す勉強家で、歴史問題には結構詳しい断片をちらほら?何事にも興味津々の夢見る乙女でも有ります。この方がいなければ11期会も存在しなかったと言える行動派です。芦屋ならぬ伊丹の貴婦人末松さんは、穏やかな口調と物腰の柔らかな姿勢ながら、しっかり芯の通った考え方の持ち主で、いつも“私は皆さんに着いていけないので、退会したい”と控え目です。じっとしておれない活動家の安永さんは、余り物事には拘らず、気配り・目配りの利く裏方さんタイプで、暇さえ有れば一人で山登りに出かける冒険家でも有ります。見た目は細いが、ぎっしりとスタミナが詰まっています。 以上

主な活動記録・今後の行事

<過去3ヶ月の記録>

- 11/1 (水) 火曜会通信No.31発行
G 伊丹市立笹原中学 27名
- 11/5 (日) G 伊丹有岡ライオンズクラブ 30名
G 布施高校歩道会 30名
- 11/7 (火) 幹事会
- 11/10 (金) G 伊丹市立北中学 81名
- 11/12 (日) G 住まいと一く 40名
- 11/14 (火) 定例会 秋バス旅研修
G NHK大阪文化センター 25名
- 11/15 (水) G 六甲医療生協 45名
- 11/16 (木) G NHK大阪文化センター 25名
- 11/17 (金) ~19 (日) 中央公民館フェスティバル
- 11/21 (火) G 西宮甲東文化財保存会 40名

- 11/22 (水) G 奈良県家庭相談連協 15名
- 11/28 (火) 市外研修 (金G) 大山崎
- 12/2 (土) G 原田城跡考える会 40名
- 12/5 (火) 幹事会 12/12 (火) 定例会
- 1/9 (火) 幹事会 1/16 (火) 定例会 新年会
- 1/17 (水) G 聖歩こう会 15名
- 1/18 (木) どんぐり座 西桑津C桑の実会
- 1/26 (金) G 伊丹市立北中学 83名

<今後3ヶ月の予定>

- 2/1 (木) 中公展pro.、火曜会通信No.32発行
- 2/20 (火) G 今悠ハイキング 30名
- 〔 幹事会:毎月第1火曜、定例会:毎月第2火曜 〕
- 〔 古文書:2火、PC:2・4木、どんぐり座:3火 〕

対 . . . その他記録アルバム . . .



11/12 発掘現場



11/23 文化財清掃



12/16・12/23 しめ縄作り



1/16 新年会

◎ 米田真樹さんが年明けに退院されました。やがて元気な姿を見せてくれるでしょう。3人娘の復活です。 . . .

編集後記

・早いもので新年も1ヶ月が過ぎてしまいました。今更、謹賀新年もないなと思っていたら、我々の活

動にも相応しい言葉を見つけました。巻頭右肩の言葉です。

・火曜会通信担当1年、4号目、今号も期日発行完。感謝。今号は11期生の投稿で4ページフル使用しました。念願の11期生の紹介もようやく書いてもらえました。

・最近の定例会での研究発表を記事としたいのですが、発表者の熱意に圧倒されてうまく簡単にまとまりません。発表者又は聞く側の感想等の記事をお待ちしています。先日の森1座の名演、どんぐり座脅威。こんなことも。 . . .

・今年も1月から3月にかけてボランティア養成講座が開講されています。ますます活発な活動に向かって ゴトウ